

## 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

研究分担者 大村 浩一郎 神戸市立医療センター中央市民病院 膠原病・リウマチ内科部長

### 研究要旨

変形性関節症および痛風・高尿酸血症の温泉療法に関するランダム化比較試験を様々なデータベースを用いて取り寄せ、一次スクリーニングを行い、現在二次スクリーニング中である。

#### A. 研究目的

温泉療法による変形性関節症、痛風・高尿酸血症に対する治療効果に関する最新のエビデンスを整理する。利用者の安全な入浴方法などに配慮した、標準的なプログラム（温泉療養、温泉利用プログラム等）を開発する。

#### B. 研究方法

変形性関節症、痛風・高尿酸血症の温泉療法に関するランダム化比較試験（RCT）のエビデンスを様々なデータベース（MEDLINE, EMBASE, CENTRAL, Web of Science, 医中誌）から収集。論文タイトルとアブストラクトより一次スクリーニングを行い、さらに取り寄せた論文をもとに二次スクリーニングを行う。（倫理面への配慮）

本研究は現時点では文献検索による研究のみであり、患者個人情報扱わず、患者への健康被害も起こりえない。

#### C. 研究結果

変形性関節症の温泉療法に関連する論文485論文の中からタイトルとアブストラクトによる一次スクリーニングを行い、128論文を取り寄せし、これから二次スクリーニングを行う。スクリーニングの過程で、アウトカムを考慮すると変形性脊椎症は除き、手と膝、股関節は分けて解析するのが望ましいと考えられ、また介入も単なるプール治療は除くという方針とした。一方、痛風・高尿酸血症の温泉療法RCT論文22論文の中で二次スクリーニングに入るものはなかった。

#### D. 考察

変形性関節症には多くの温泉療法に対するエビデンスが存在することがわかったが、その介入方法は様々であり、アウトカムも様々であるため、メタ解析は困難であり、narati

veな結果解釈となりそうである。一方、痛風・高尿酸血症に関するエビデンスはほとんどないことが判明した。高尿酸血症はRCT以外のエビデンスを探す必要がある。

#### E. 結論

変形性関節症、痛風・高尿酸血症に関する温泉療法のエビデンス論文を収集し、現在、関連論文の二次スクリーニング中である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

